

KYOTO 2025



TSUCHI サミット

～ 土文化と生命 ～

2020年より、建設工事に伴い発生する「土」の問題に焦点を当て、建設発生土・汚染土・廃棄物に関する課題やリサイクルの可能性を発信してきました。今年で5回目を迎える本サミットでは、2021年以降、大きな変化が起きている建設発生土の現状と今後の展望、さらには世界の土事情にも目を向けます。国内外の研究者・技術者・市民が協力し、学術知と社会実装をつなぐ産学官民の共創プラットフォームの構築を目指します。

2025年 **10月14日** 火

時 間

第一部／土サミット 13:00～17:00
第二部／交流会 17:30～19:30

会 場

土サミット／京都大学百周年記念ホール
交流会／国際交流ホール

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学本部構内正門正面

お申し込みはこちら ▶

<https://tsuchi-summit.com>



お問い合わせ

土サミット事務局

(一社)全国建設発生土リサイクル協会内

〒101-0023 東京都千代田区神田松永町22番地 成瀬秋葉原ビル9階

TEL:0120-008-590 E-mail:info@tsuchi-summit.com

「土サミット」の終了後、講演者の方々と交えての交流会を開催いたしますので参加をご希望の方は事前にWEB登録をお願いいたします。

10月14日（火）プログラム（敬称略）

13:00 講演会&パネルディスカッション 開会

13:10～13:50 京都大学 大学院地球環境学堂 教授 勝見 武
基調講演：「土の利用における厳格さと寛容さについて」

13:50～14:20 京都府立大学 准教授 松田 法子
特別講演①「生環境構築史と土」

14:20～14:40 <休憩>

14:40～15:10 土木研究所 地質・地盤研究グループ長 宮武裕昭
特別講演②「土との距離感 ～土とうまくやっていく方法～」

15:10～15:20 <休憩>

15:20～17:00 パネルディスカッション

テーマ：土と文化 — 「農学（森林・農地）」×「工学（土木）」の対話からSoil & Culture: A Dialogue between Agronomy and Civil Engineering

農地・森林・景観・建設発生土といった多様な「土」のあり方をめぐり、農学と工学の第一線が一堂に会します。地盤環境、森林水文学、地盤材料学、アグロエコロジー、建設資源の広域利用などの知見をもとに、土の公共財性、景観・生物多様性の保全、手入れの文化、そして広域マッチングとトレーサビリティ標準化までを多角的に討論。6カ国比較や流域スケールでの連携、AI・センサー活用など未来志向の提案も交え、京都から新たな「土の対話」をひらきます。

<登壇者>

ファシリテーター：祢津 知広

（国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画官）

パネリスト：

- ・ 川本 健（埼玉大学 理工学研究所 教授）
- ・ 小杉 賢一郎（京都大学大学院農学研究科 教授）
- ・ 江城 静順（京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 博士後期課程2年）

コメンテーター：大庭 孝之

（株式会社建設資源広域利用センター 常務取締役）

17:00 閉会